



松戸ファームのテープカットを行う和田社長(右)

貸農園が働く場に

障害者雇用支援サービスを提供するエスプーラス(東京都千代田区)は、障害者専用の企業向け貸農園を千葉県や愛知県で開いている。障害者雇用、サポートスタッフとしての高齢者の雇用、企業の障害者雇用率向上、耕作放棄地活用の四つの利点が見込める。9日には11番目となる貸農園「わくはびねず農園松戸ファーム」を千葉県松戸市に新設した。

同社は障害者と面接し選抜した上で、農業技術を教える。雇用を希望する企業に紹介する。障害者はサポートスタッフと農園で野菜作りなどを行う。企業が直接雇用して自給体の定める最低賃金以上を支払い、日に6時間の勤務だと月10万円

障害者と企業との橋渡し 企業と障害者 出会いの会

エスプーラス

技術教えて紹介も

同社は農園の貸し出しや管理、運営、技術指導などを行う。圃場(ほじょう)は全農園で溶液栽培の施設をそろえ、ホウレンソウ、ハクサイ、カブ、キュウリ、ナスなど40品目の中から、技術の成熟度や季節に合わせた作物の栽培を提案する。既存の10農園は企業からの申し込みがほぼ埋まっている状況で、同社の和田一紀社長は「次は埼玉県

など、別の関東エリアで新設を狙っている」と話した。松戸ファームは約81坪、約60人の障害者雇用とサポートする人員として高齢者など約20人の雇用を生み出すことを見込んでいる。東レエンタープライズの社員として採用され、10日から貸農園で働く、障害者の男性(22)は「野菜に関わるのは楽しい」と9日までに行った計8日間の研修を振り返り、親族は「初めての仕事、食物を育てること、心身ともに健康になってくれれば」と話した。

生産緑地制度を周知

JA東京むさし 28会場徹底議論

【東京むさし】JA東京市、武蔵野市の組合員を対象に、特定生産緑地を対して、特定生産緑地制度などの支部別説明会を開いている。生産緑地に関する制度が大きく変わる中、組合員への理解や疑問点を徹底的に解決していく。

滑化に関する法律の内容を中心に説明した。生産緑地の指定後30年の期限が到来する前に、特定生産緑地として指定の漏れがないよう、十分に周知する。

説明会の前には、JA職員の制度に対する理解と説明会の趣旨を深める

